

学校教育目標		豊かな人間性をもち、主体的に考え行動する子供の育成		重点目標	未来を考え、自ら学び行動できる子供の育成				
		評価計画		自己評価			学校関係者評価		改善計画
重点目標	重点目標			評価	結果(成果○と課題△)		評価	コメント	改善策(案)
	重点目標に関する評価	主体的・対話的に学び合う力の育成	学力向上プランの計画に基づいた実施と点検を学期に2回実施	全国学力状況学習調査(国算) 全国平均点以上 単元テストの平均80点以上 計画に基づいた教師評価3以上	4	○ 見方・考え方を明確にした授業づくりにより年間取り組んだことで、子供たちにも既習を生かして課題解決をする学び方が定着してきた。 ○ 単元の中で、「自他の考えを伝え合う場」を意図的に設定するような単元構成の工夫が見られるようになってきた。 △ 対話活動をより活性化するための工夫を講じる必要がある。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 重点目標を3つの柱(知・徳・体)に根差したものとし、それぞれの取組が細かく設定されていて分かりやすい。 ・ 対話活動は、とても大切なので、来年度の取組を期待する。	・ 対話活動を行う目的を明確にした単元構成や授業づくりを行う。 ・ ICT機器の効果的な活用法について情報担当教諭を中心に進めていく。 ・ 板書やノートなど、確認し合い、実践を積み重ねていく。
1単位時間で働かせる見方・考え方や、習得する具体的知識・技能を事前に明確化			計画に基づいた教師評価3以上	4					
目的を明確にした「自他の考えを伝え合う場」を設定した授業改善			授業場面の設定 教師評価2.8以上 児童アンケートによる評価3.6以上	4					
良好な人間関係の構築と豊かな心の育成		学年に応じた挨拶の徹底(元気に、進んで、気持ちのよい)	児童アンケート80%以上 教師評価3以上	4	○ 挨拶について、学期毎にレベルアップさせたためあてを設定して取り組み、挨拶の質が高まった。 ○ やさしい言葉遣いについて授業や掲示物・配付物で示すことで、意識付けができた。 ○ 学年に応じた学級活動の進め方を基にして、自他の考えを尊重した話し合いが定着しつつある。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 人間関係の構築は、大切である。今後も学校・家庭・地域とのつながりを大切にしていきたい。 ・ 全職員で自尊感情が高まるような声かけを積極的に行う。 ・ 学校内を参観し配付物等を見ると、やさしい言葉かけで子供達を見守っていると感じた。	・ 児童が常に意識づけできるよう、人権に関する掲示(ふわふわ言葉の例)を常時行い、全ての学年が使えるようにする。 ・ 全職員で自尊感情が高まるような声かけを積極的に行う。 ・ 運営委員会を中心に児童の挨拶運動を続ける。	
		やさしい言葉遣い(ぼかぼか言葉の推進)	児童アンケート80%以上 教師評価3以上	4					
		学級会での自他の考えを尊重した話し合い	児童アンケート80%以上 教師評価3以上	4					
粘り強く取り組み続ける力の育成(運動の質と量の充実・技能・体力の向上)		体育の学習の準備体操において、柔軟性を高める運動の実施	聞き取り調査80%	4	○ 毎週金曜日に学校全体で柔軟性を高める運動を行い、柔軟性の記録に伸びがあり、改善が図られてきた。 ○ 感染対策を講じながら、持久走・なわとびなど活動の仕方を工夫して体力向上を推進することができた。 ○ 体力テストの結果を基に遊びを仕組んだ学年では、どんな課題の改善が見られた。 △ どの学年でもエビデンスに基づいた活動を仕組むよう徹底を図ることで継続した取組へと発展する。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 今後も体力向上の取組を継続してほしい。 ・ 地域から見ても、体力づくりの必要性を感じている。外遊びの機会をなるべく多く設けてほしい。	・ 走力・敏捷性に特化した運動を金曜日の体力タイムで取り入れる。 ・ 伸ばしたい運動能力に適した体操や運動、遊びの事例を全校で確実に共有する。 ・ 走力の課題を解決するためには、持久走大会だけでなく、体育科の学習の中で新たな取組を考える必要がある。	
		授業での1単位時間のうち、30分以上の運動量の確保(主運動に繋がる動き「やってみよう」の充実)	聞き取り調査80%	4					
		体力upチャレンジの継続的な実施	参加率100%	4					
		新体力テストの結果を踏まえた、遊びの紹介と学級での実施	聞き取り調査80%	3					
いじめ		早期発見・早期対応「しない・させない・見逃さない」指導体制の機能化	学校生活アンケート・いじめアンケートの活用	確実な実施100% 実施後の教育相談	4	○ 学校生活アンケート・いじめアンケートを実施し、面談をすることでいじめの早期発見・対応につながっている。 ○ 「コロナによるこころからのアンケート」を実施し、子供の状況把握に努めた。 △ 子供を見つめる会での共有事項の引き継ぎを確実にやっていく。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ SNSトラブルに関しては、大人が把握しにくい状況もあるので日頃から児童と先生方とのコミュニケーションが大切である。 ・ コロナ禍における心とからだのケアを引き続き実践してほしい。	・ 「子供を見つめる会」での情報交換を基に、全職員で自尊感情が高まるような声かけを積極的に行う。 ・ 子供の様子の引き継ぎ等については、年度初めに職員に周知して、有効に活用していく。
			「子供を見つめる会」での共通理解及び保護者との連携	定例化月1回 迅速な保護者対応	4				
		保護者アンケート(チェックリスト)の活用	確実な実施100% 実施後の教育相談	4					
不登校	早期対応	福岡アクション3による不登校未然防止のアクションの確実な実施	欠席3日で早期の家庭訪問、保護者面談の実施	4	○ 各担任が、不登校児童本人や家庭と密に連絡をとり、つながりができている。不登校児童への個に応じた対応を丁寧に行うことができた。 △ 不登校傾向児童には、さらに家庭と連携し、対象児童にとってよりよい対応や解決策となるよう関係機関と連携して課題解決にあたる。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 不登校に関しては、学校と家庭はもとより、SCやSSW、児童民生委員等との情報共有も大切なので連携を進めてほしい。 ・ 学校と地域が連携して不登校解消に努めていく。	・ 不登校期間が長くなってきている児童が学習をしたり、人間関係を学んだりできるよう、関係機関等とつながっていく。 ・ ICTの活用も視野に入れて、学びの保障も行っていく。 ・ SCやSSWとも連携して、組織的に対応していく。	
		8日以上欠席児童へのマンツーマン対応等、きめ細かな対応の組織的、継続的な実施	不登校児童に対する共通理解と組織的対応	4					
		スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)等の積極的活用	個に応じたSC、SSW等の活用	3					
働き方改革	教職員の心身の健康維持	週に1回全職員(水曜日)及び個人や同学年の定時退校日の実施	確実な実施100% 教職員への声かけ	4	○ 週1回の定時退校日を設定し、声をかけ合うことができた。 ○ 金曜日は、会議を無しにして週案作成や学年会の時間にしたので、退校時刻が早くなってきた。 △ 授業研や大きな行事の前等、時期によっては時間外勤務が増えるため、効率よく準備・運営できるよう工夫が必要である。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 先生方が心身共に健康で仕事に集中できる状態にあることは、子供達にとっても重要なことなので、一層の働き方改革の推進をしてほしい。 ・ 毎日の校務、子供達への献身的な指導に感謝する。	・ 引き続き、毎週水曜日は定時で帰ることを目標に、計画的に仕事を進められるよう、職員室に掲示し、声を掛け合う。 ・ 行事の精選や校務分掌での仕事分担の役割等を見直していく。	
		退校時刻を遅くとも19時30分に設定する	確実な実施100% 教職員への声かけ	3					
		毎週金曜日は、なるべく会議や研修等行わず、同学年会や週案作成の時間を確保	確実な実施100% 教職員への声かけ	4					

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである

令和3年度 学校評価報告書

評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
領域			評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)
総括	教育課程 学習指導	年間指導計画や週案作成	4	○ 週案に単元名・めあて・指導内容・「見方・考え方」を明記するようにしたこと、学習のねらいが明確になり、学習内容の定着が図られた。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 週案の内容が素晴らしい。管理職が先生方に寄り添い、一人にしない連携がとれている。	・ 次年度も引き続き、週案に単元名・めあて・指導内容・「見方・考え方」が明記する。クラスの出来事等や子供たちの姿容等記録して、管理職は、コメントを書き連携を図っていく。
		効果的な指導方法の工夫	4		A		
	進路指導	中学進学への不安解消	3	○ 小中連携推進委員会において、学力向上・ESD等連携を図ったことで、取組内容が明確になり、中学校での学びの準備ができた。出前講座は実施を見送った。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 中学1年生の不登校が増えているので、今後もより小中の連携を図ってほしい。	・ 小中連携推進委員会において、学力向上・ESD等連携を図っていく。特に、学力向上に関しては、「見方・考え方」を生かした授業づくりについて連携を深めたい。
		望ましい勤労観、職業観の育成	4		A		
	生徒指導	基本的な生活習慣の育成	4	○ あいさつ、身の回りの整理整頓の指導(昇降口のくつをそろえる。)	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ あいさつは、人と人の関わりの基本であるので今後も続けてほしい。	・ あいさつは、運営委員会の子供たちを中心に引き続き実践していく。昇降口のくつ・トイレのスリッパをそろえることに関しては、主幹教諭の放送のおかげで出来てきた。「子供を見つめる会」にて子供たちの様子を教職員で共通理解しているので、来年度も続けていく。
		いじめ不登校への組織的対応	4	○ いじめ不登校等の研修会の開催(年3回)と不登校児童に対するマンツーマン子供を見つめる会、学校生活アンケート等の確実な実施と活用	A	・ 学校訪問の際には、いつも靴箱がきれいに整っていて、基本的な生活習慣ができていると感じた。	
		問題行動への対応	4		A		
		保健管理体制	4	○ 環境衛生(換気、採光、トイレ等)の管理	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 養護教諭による児童への声かけや指導、出欠等の連絡・相談・報告により児童の変化を早めに把握でき、児童の健康に留意して教育活動を進めることができた。	・ 出席状況の把握をはじめ、養護教諭が配慮を要する児童の把握と情報共有に努めてくれるので、引き続き共有し早期対応をしていく。
	安全管理	出席状況の把握	3	○ 担任、管理職、養護教諭の情報共有アクション3に合った対応の実施	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 養護教諭は、児童の心のケアにも対応してくれていると保健室を見て感じた。大変うれている。	
		安全教育	4	○ 12月14日に火災避難総合訓練の実施、12月15日に防犯教室と県警音楽隊の来校。月一回の職員による安全点検の実施。ネットトラブルの防止のための情報モラルの学習を3456年で実施した。長期休業前には、繰り返し指導している。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 今後も安全点検は丁寧に、続けてほしい。	・ 月1回の安全点検を教職員だけではなく、児童に呼びかけて多くの目や視点で行う。PTA地域委員会と連携し、通学路における交通や防犯上の危険箇所点検とSOSの家の確認を確実に実施する。定期的に、地震・火災・大雨に関する避難訓練を計画・実施する。
		安全点検	4	○ 日常および定期の施設・設備の安全点検実施	A		
		通学路の安全	4	○ 通学路の安全点検(年3回)と必要に応じて危険箇所の点検及び交通指導の実	A		
特別支援教育	共通理解	4	○ 特別支援教育の充実を図り、適切な対応ができるよう職員研修会を実施。「子供を見つめる会」でも組織的対応ができるよう職員で共通理解をしている。11月に南筑後教育事務所との巡回相談を活用した。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 児童や保護者の教育的ニーズに応えるように今後も努めてほしい。	・ 児童の特性や発達状況に応じた、交流学習の見直しを日常的に行う。各関係機関との連携を継続して行い、児童や保護者の教育的ニーズに応えるように努める。	
	推進体制	4		A			
	職員全体への巡回指導の共通化、個別の対応に向けた関係機関や保護者との連携(随時)	4		A			
組織運営	校務分掌組織の機能化	4	○ 各主任の自己評価に基づく校務の遂行(学期1回)	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 若い先生方が多いので「助言」と「賞賛」を大切にされている心遣いがとてもいい。	・ 三者会における主任・主事への指導や内容、時期等の確認を行う。若年教諭による校務の遂行への助言と賞賛も引き続き行っていく。	
	三部会の定期的開催	4	○ 各部の主任を中心とした評価と改善策についての協議(学期に1回)	A			
研修	校内研修の推進	4	○ 全員の授業公開と主題研究の日常化 研究に関する「教務通信」の発行	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 先生方一人一人の個性を認め合うような職場環境であるならば、児童にとってよい影響として伝わると思うので研修に努めてほしい。	・ 主題研修会のほか、主幹教諭・各教師の特技を生かした「ミニ研修会」を実施し、特に若年教師のスキルアップに努める。「教務通信」では、重点目標達成のために、授業において重視するところや今、子供たちに身につけさせたい内容等について引き続き指導していく。	
	一般研修推進	4	○ 道徳、人権・同和教育、特別活動に係る研修の推進	A			
	初任者研修の充実	4	○ 全員協力体制による初任者への指導・助言	A			
教育目標 学校評価	教育目標の達成状況	4	○ 教育目標についての評価と改善(学期1回)	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 「チェックシート」をもとに、児童・教職員・保護者の思いを大切にされた実践となっているため、みんなが納得感をもって取り組んでいる。	・ 重点目標の具現化に向け、定期的に教師評価・児童評価を実施し、改善策について全職員で考えて取組の修正を行っていく。	
	各担任による知・徳・体への取組への評価	4	○ 週指導計画に今月の取組と、振り返りシートに今月の取組と、振り返りシート(毎月)	A			
情報提供	情報提供のネットワーク体制	4	○ 学校便り(月1回)、Mボード(毎日)、ホームページの更新(随時)によるメール配信システムを活用した細かくで確実な情報配信	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ Mボードに毎日配信され、保護者が学校での学習や生活、行事等の様子を知ることができ、たいへん有効である。	・ 学校だより、Mボード、メール配信等で学校の取組や児童の学習状況等を定期的に発信する。新聞社の取材への情報提供も行う。	
	情報伝達・配信	4		A			
保護者・地域との連携	保護者・地域住民等との連携状況	4	○ 授業の様子や学校の活動内容について、主幹教諭がMボードを毎日発信している。また、見守り隊の皆さんの支援により、通学指導を行うなど、連携を図ることができた。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ 様々な行事が中止となる中、学校の取組を情報提供して、保護者や地域の協力や理解を得ることで、更に効果が上がると思う。	・ 児童の様子を参観してもらうため、授業参観や学校行事を計画的に進める。学校評議員の皆様は、学校関係者評価委員会の折に参観して頂く。	
	地域住民等との連携状況	4		A			
教育環境整備	教育環境整備状況	4	○ スクール・サポート・スタッフや保護者ボランティアによるクリーン活動や読書ボランティアの方による読み聞かせ活動など、児童が安全に安心して学校生活を送る環境を整えることができた。	A	・ 学校の評価は適切である。 ・ コロナ禍でも出来ることを見極めて実践しているので素晴らしい。	・ 児童の教育活動やESDの取組等の学習成果等を掲示し、学校の特色が一目で分かる教育環境の整備を行うよう効果的な予算の執行に努める。	
	校庭等環境整備	4	○ 保護者、保護者ボランティアと協力しての学校美化の整備	A			

◇ 評価について ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである